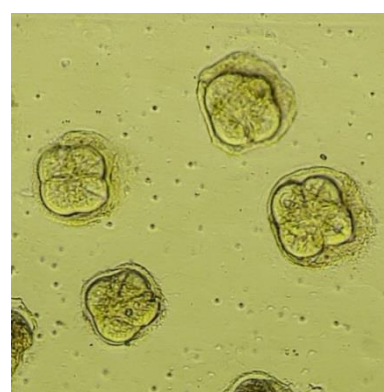
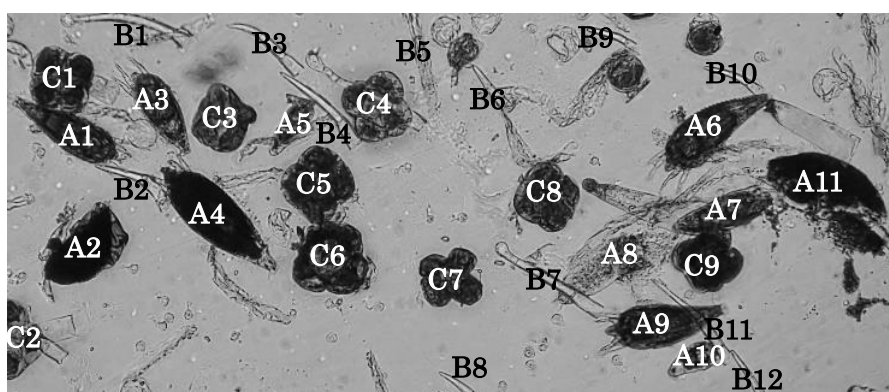


トマトサビダニの高密度な寄生状態



トマトサビダニの被害茎にセロテープを押し当てて虫体を採取し、顕微鏡で観察しました。画像はおよそ縦 0.5mm 横 1.2mm の範囲です（上段図）。トマトサビダニ（A1～A11）は 11 頭が見られます。1mm 四方に 20 頭という寄生密度です。

これに対し、トマト表皮上の絨毛（B1～B12）は 12 本、腺毛（C1～C9）は 9 本見られ、腺毛と同程度の数のトマトサビダニが寄生していることが分かります（中段左図）。

健全な腺毛は分泌物をまとっていますが（中段右図）、トマトサビダニが寄生すると吸汁され、枯死して褐変し、分泌物は見られなくなります（上段図）。

この結果、緑色の表皮の上に褐色の腺毛があるため、肉眼では独特な緑褐色の茎に見えます（下段図）。

最後に、絨毛、腺毛はともに、学術上はトライコーム（Trichome: 毛状突起、古くは毛茸とも）と総称されます。植物体表面上の突起物で、表皮細胞のみに起因してできるものは毛状であって鱗状であっても、その形に関わらずトライコームと呼びます。